令和6年度第1回狭山市協働推進委員会会議録

開催日時：令和6年5月24日（金）午後1時30分から5時00分まで

開催場所：狭山市6階602・603会議室

出席者：10名

事務局：自治文化課 課長 主幹 主事 4名

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 委員自己紹介

4. 正副委員長、幹事の選出

5. 委員長あいさつ

6. 議題

(1) 狭山市協働推進委員会について事務局より説明

(2) 令和6年度提案型協働事業について事務局より説明

(3) 令和5年度提案型協働事業報告会（プレゼンテーション）

【にじいろ体操教室（団体：一般社団法人 mama's community）】

《委員からの質問》

- ・今後、活動を広げていく可能性はあるか。
→昨年度は、2部制で事業を行っていたが、令和6年度については、3部制で実施する予定である。

- ・体操教室を開催している中で、怪我人は出たか。
→毎回5、6人のスタッフを配置し、対応しているため怪我人はでなかった。

【ふるさと狭山の遺産「広瀬斜子織」の普及啓発と再現（団体：狭山遊糸会）】

《委員からの質問》

- ・「広瀬斜子織」再現研究報告書は拝見できるか。
→300部ほど印刷をし、現在は、残部が2部になってしまったが、後ほど報告書をお渡ししたい。

【いりそらマルシェ・いりそらタウンミーティング（団体：いりそら）】

《委員からの質問》

- ・いりそらタウンミーティングで作成した「入曽のまち活用提案マップ」を実際に拝見できるか。

→「入曽のまち活用提案マップ」は、あくまで市民の皆さんが考えた入曽の理想の姿をまとめたものであるという点を理解していただいた上で提供したいため、提供方法等について慎重に検討中である。

《委員からの意見》

- ・いりそらマルシェについて、昨年度は、年2回の開催であったが、今後は毎月1回の開催など、定期的に開催されると良いと考える。

【高齢者のための元気が出る音楽レクリエーション「ヨッコラショーズ」
(団体：童謡を歌う会 そよ風)】

《委員からの質問》

- ・ピアノの生演奏が特色となっているが、ピアノの演奏者は一人のみか。
→ピアノの演奏は、一人のみに依頼している。

《委員からの意見》

- ・代表の明るさや、以前同じような活動をしていたという強みから参加者も楽しく参加する様子が見えた。行政は、市民のエネルギーを活用し、同じような活動が市内に広がっていけばよいと考える。

【狭山市探訪ウォーキングマップの制作（団体：NPO 法人さやま生涯学習をすすめる市民）】

《委員からの質問》

- ・マップを使って、実際に歩いてもらうことが重要であるが、どのようなイベントを計画しているか。
→マップを使って、実際に一般市民の方とコースを歩くウォーキングイベントを計画している。このイベントについては、広報さやま等で周知を行ってきたい。また、歴史ガイドの方に案内をしてもらうなど、単にコースを歩くだけでなく、学びながら歩いてもらえるようなイベントにしたい。

- ・ウォーキングイベントは、参加費を徴収する予定か。
→イベントを実施する上で経費がかかるため、1回500円ほど徴収する予定である。
- ・今後の予定としては、狭山市全域のマップを作成する予定か。
→今年度は、柏原地区及び新狭山地区のマップを作成し、来年度に入曽地区及び堀兼地区のマップを作成する予定である。入曽地区については、入曽駅が整備され、新しい道路等が反映された一般の地図が完成した後、この事業のマップの作成も行う予定である。

《委員からの意見》

- ・歴史ガイドの方だけでなく、他の方とも協力しながら進めていただければと思う。

【音楽を通じた“孤育て”支援 ―打楽器のワークショップで作る交流の場―
(団体：こそだて支援 comono)】

《委員からの質問》

- ・今後は、協働事業として実施せずに自走していきたいとのことだが、自走できる見立てはあるか。
 - 現在も毎月開催しているが、SNS での周知や知人の繋がりで見込も増え、毎月2、30名の方が参加費を払って参加している。その参加費で、会場費や講師謝礼金等を賄っている状況であるため、今後も自走していくことが可能であると考えている。
- ・提案型協働事業の補助金の支援は、団体の今後にとって有意義なものだと考えてよいか。
 - どのくらいの人数が参加し、どのくらいの参加費がとれるかなどがわからないなかで事業を始めたため、補助金という形で支援してもらうことによって、資金の面を心配せずに、自走する形を作っていくことができたのではと考えている。
- ・市内の他のイベントにおいても、活躍されている姿を拝見したが、様々な形でイベントに出展する機会があるのか。
 - 現在、パチカ部やカンカン部がそれぞれのイベントに出演し、他のアーティストと一緒に合奏する機会が年に何回もある。今後もこのような活動を続けていきたい。

《委員からの意見》

- ・このイベントを知るまでは、大人数で打楽器を演奏することは難しいことだと感じていたが、自分で手作りした楽器で参加することができ、声や手拍子と同じくらい気軽に大勢の参加者と一緒に取り組めることがあるのだなと感動した。この取組を長く続けていただきたい。

【犯罪被害者等支援事業（団体：一般社団法人犯罪被害者等支援の会「オリーブ」）】

《委員からの意見》

- ・平成29年度に市民提案型協働事業としてこの事業が採択されたときは、委員からも様々な意見が出たが、市民提案型協働事業として3年間、令和5年度行政提案型協働事業として1年間「犯罪被害者等支援事業」を実施し、その事業の代表が荻野吟子賞を受賞したことは、委員にとっても大変誇らしいことである。

【集まれ、オンラインしゃべり場（団体：NPO 法人地域教育ネットワーク）】

《委員からの質問》

- ・ヤングケアラー、ひとり親家庭の子どもや登校渋り、不登校、ネット依存の問題に直面している子どもたち等を対象にオンライン上で相談にあたるがあるが、実際何名ぐらいの相談があるのか。
 - 相談者が狭山市内の子どもだけでない可能性があり、狭山市内在住なのか狭山市外在住なのかの判断が参加者 ID からはできないため、狭山市内の子どもたちの正確な参加人数は把握できていない。昨年度は、開設に向けて体制を構築し、今年度から本格的に運用を開始するため、相談者を狭山市内の子どもたちに限定する方法については、スタッフとして協力してもらっている子どもたちと検討していきたい。オンライン上の相談会ではなく、生成 AI の部分を利用している子どもたちは、多いと感じている。
- ・対面や会話など直接的なコミュニケーションでは拾えない事例を、Discord を通じて支援に繋げているが、子どもたちと関わる手段として Discord を選んだ理由や Discord の役割等があれば教えていただきたい。
 - 現在の子どもたちは、チラシよりもネットから情報を得ることがほとんどであり、オンライン上での相談は、子どもたちにとってハードルが低く、Discord は相談するきっかけとして機能していると考えられる。しかし、最終的な目的は、オンライン上での相談から対面でのコミュニケーションに繋げることであるため、管理者である大人がどのように子どもたちと関わっていくかという点が今後重要になってくると感じている。相談員に繋げるための手段として Discord を提案させていただいた。
- ・悩みを抱えた子どもたちにとって実際に相談することは、ハードルが高いと感じるが、どのように子どもたちの声を聴くのか教えていただきたい。
 - Discord では、チャット作成という部分で、個人的かつダイレクトに相談を受けられるようになっている。子ども同士の交流は、カテゴリーごとに分かれているチャットで行えるが、そこで収まらない場合については、チャット作成部分から NPO 法人に相談を行えるようになっている。Discord は、ビデオ通話機能もあるため場合によっては、ダイレクトに子どもたちと話すことができる。

《委員からの意見》

- ・時代の最先端に行く発想がないと、このような事業は取り組めないのではないかと思うので、事業を実施する中で、気づいたところで課題を解決し、改善しながら目標に向かって進めていければいいのではないかと思う。

7. 副委員長挨拶

8. 閉会